

災害に備えて

まずはご家庭で飲料水を備蓄しましょう

大規模な災害などで断水した場合には、浄水場や水道管の復旧を優先して行うため、発災後すぐに災害時給水所で給水ができないこともあります。

また、水は重いため、災害時給水所からポリ容器などに入れて持ち帰ることは重労働です。

そこで、ご家庭で**1人あたり1日3リットル、最低3日分で9リットル以上**の飲料水を備蓄しましょう。

備蓄には、ローリングストックも有効です。



災害時給水所

※箇所数は令和2年度時点

災害などで浄水場や水道管などが被害を受けて断水したときに、誰でも飲料水を得られる場所が「災害時給水所」です。

配水池 22カ所
発災直後から

水道局職員が地域の皆さまへ給水を行うほか、給水車へ水の補給なども行います。



のぼりでお知らせ

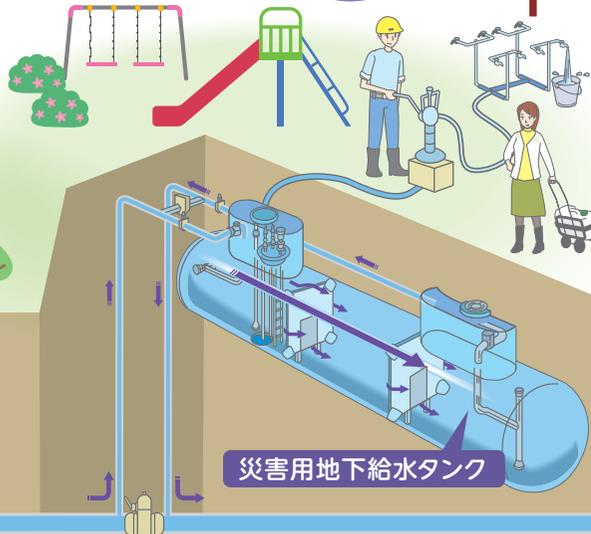
災害用地下給水タンク

134カ所
発災直後から

地域の皆さまの「共助」により、地下にあるタンクに仮設の蛇口を設置して給水を開始します（横浜市管工事協同組合が施設の補助を行います）。



標識が目印



災害時給水所の場所を確認しましょう

災害時給水所の場所を示した区ごとの災害時給水マップは、横浜市行政地図情報提供システム掲載の「はまピョンマップ」や横浜市ウェブページで確認できるほか、区役所・水道局各水道事務所でも手に入れることができます。

そのほかにも、「ロケスマ」「全国避難所ガイド」といった、災害時給水所を検索することができるスマートフォン用の無料アプリケーションもあります。



はまピョンマップ
2次元バーコード

水を運ぶためのポリ容器などの準備を

災害時給水所には、水を持ち帰るための容器がありませんので、飲料水の備蓄とあわせて容器もご準備ください。

ポリ容器などに入れた水を持ち帰るには、リュックや台車などを使うと便利です。お住まいの環境やご自身の体力に合わせて、水を持ち帰る道具も用意しましょう。



耐震給水栓

12カ所
発災直後から

地震に強い配水管から蛇口までの水道管を耐震化した屋外の水飲み場です。災害用地下給水タンクなどが設置されていない48カ所の地域防災拠点を対象に、計画的に整備を進めています。



案内板が目印



耐震給水栓

給水車

医療施設などを優先して、運搬給水を行います。

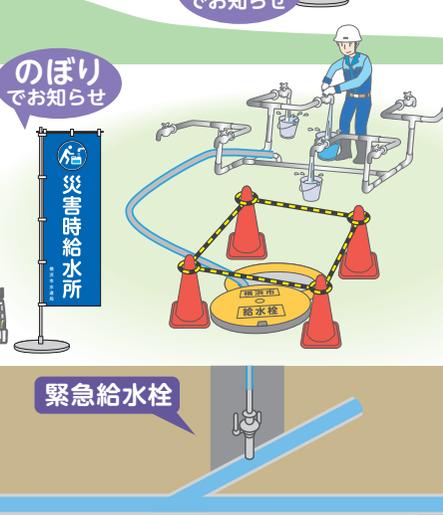
のぼりでお知らせ

緊急給水栓

358カ所
発災後おおむね4日目以降

水道局職員と横浜市管工事協同組合が順次、地震に強い水道管に仮設の蛇口を設置して給水を行います。

のぼりでお知らせ



緊急給水栓